

第21回委員会会議結果概要(案)

開催概要	
日時	平成20年7月23日(水) 18時00分～20時40分
場所	船橋市西部公民館 3階 講堂
参加者数	40名
出席委員	16名(遠藤茂勝、工藤盛徳、倉阪秀史、榊山勉、清野聡子、宮脇勝、 及川七之助、上野菊良、竹川未喜男、歌代素克、後藤隆、 佐々木洋晃、田草川信慈、下原慶啓、増岡洋一、鯉淵彰) :委員長
結果要旨	
<p>第20回委員会の開催結果概要</p> <p>資料1により確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質疑なし。 <p>緑化試験について</p> <p>報告事項(1)「第1回勉強会の開催結果概要」と併せて、資料2により事務局から説明があり、質疑応答および意見交換が行われた。</p> <p>[主な意見及び対応]</p> <p><倉阪委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・袋の耐久性について確認をしたか。 <p>事務局回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・袋そのものの耐久性は調べ切れなかったが、麻のシートについて調べたところ、1年から2年であった。 <p><まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局案にて試験を進めることとなった。 ・平成20年度被覆予定部分60mのうち、緑化試験の施工部分でない40m部分については、緑化を行わず基本断面で完成形にすることとなった。 <p>検証基準値について</p> <p>報告事項(1)「第1回勉強会の開催結果概要」と併せて、資料3により事務局から説明があり、質疑応答および意見交換が行われた。</p> <p>[主な意見及び対応]</p> <p><田草川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・潮間帯生物の定着に関する検証基準について、現状をそのまま検証基準にするのではなく、もともとあった三番瀬の自然をこの機会に再生するということを考えて、基準を設定すべきではないか。 <p><遠藤委員長></p> <ul style="list-style-type: none"> ・この検証基準値は、最低限のレベルを設定したものと理解している。 	

< 田草川委員 >

- ・この基準だと、干潟化を排除するような方向になってしまうのではないかと。全てマガキを主体とした護岸にするということなのか。

< 倉阪委員 >

- ・今回の場合は、石積み護岸の潮間帯を検証場所として選んでいるので、マガキが選ばれている。例えば今後、市川市所有地の前あたりで、異なった護岸の形状になるのならば、再生実現化試験計画等検討委員会の試験などをみながら生物種を選んで、検証基準をつくるということを考えなければいけないと思う。

< 竹川委員 >

- ・検証基準について、最終的にはいつごろ決める目論見なのか。
- ・護岸前面の変化については、もう少し広い視野から見る必要がある。検証基準は、どこで評価するのか。

事務局回答

- ・完成形が完成するまでに、検証基準が定められていけばよい。
- ・護岸検討委員会で内容をまとめた後、評価委員会の判断を仰ぐこととなる。

< 清野委員 >

- ・護岸改修は再生そのものではなく、どちらかというところと一種のエコアップに近いようなもので、再生の全体像とか海と陸の連続性に関しては、もう少し周辺状況が進んでから検討することとしていた。護岸検討委員会の目標をもう一度整理して、再生というものとなじませるための接続点というものを記述するとよい。

< 後藤委員 >

- ・完成形については、バリエーション検討の中で、いいものに近づけるよう議論していったほうがよい。
- ・地形変化の問題がある。完成形の前が少し掘れてきているが、断面が続いていった場合、どう影響が出るか注意深く見ていったほうがよい。
- ・今のデータだけで粒度組成の変化を直線でとるのは、危険だと感じるのと、注意しておいたほうがよい。

< 竹川委員 >

- ・地域の防護の確保に対する検証基準を、パーセントで表現するのは問題がある。工事の進捗状況に基づいていることを理解していれば別だが、注釈でも加えておかないと正しく理解されないのではないかと。

< 後藤委員 >

- ・外からみるとわかりにくい面もあると思うので、わかりやすくしてあげる必要がある。

< 佐々木委員 >

- ・900m間の目標達成の数字としては、これでいいのではないかと。

< 工藤委員 >

- ・だれが読んでも疑問を生じないようにしておいたほうがよい。高潮については、別途マウンドによって対処するものとするなど、書いておいたほうがよい。

< 遠藤委員長 >

- ・進捗状況に伴った1つの検証基準値として設けられた経緯がある。事務局は、基本的にはそれを踏襲する形で進めていきたいということである。

平成21年度実施計画について

資料4により事務局から説明があり、質疑応答および意見交換が行われた。

[主な意見及び対応]

< 遠藤委員長 >

- ・捨石と海側のH鋼杭は、特別な部分を除いて概ねつながるので、今後どのような形で進めていくかということが非常に大事である。

< 倉阪委員 > < 工藤委員 >

- ・事務局案それぞれのメリット、デメリットのようなものを教えてほしい。

事務局回答

今回は、委員の皆さんがどのようなことを優先して考えているのか、意見を伺いたいので、メリット、デメリットは考えていない。

< 工藤委員 >

- ・H鋼杭は海側、陸側が2つでセットとなり円弧すべり防止になると聞いていたが、海側半分だけ入っている場合は、どの程度効果があるのか。

事務局回答

検証基準値でいうと、両側ができて100%になるので、片側だと50%という認識をもっている。

< 遠藤委員長 >

- ・参考程度にこれらの案をあげた背景を教えてほしい。

事務局回答

陸側のH鋼を進めると、耐震対策が進み、また海域工事の期間に制限されず1年中工事ができる。捨石部分を3割勾配にすることは、耐震対策になるし、波に対して安定性が増してくる。完成形を進めると、イメージがつかみやすいのではないかと考えている。

< 歌代委員 >

- ・陸側のH鋼杭と鋼矢板を優先して進めるべきである。さらに予算的な余裕があれば、捨石部分の安定性を確保するとよい。

< 清野委員 >

- ・背後地の合意形成ができないかもしれないという前提で進めないと、もう公共事業予算はかなり限られてきているので、まずは最低限の防御でいいと思う。その後、背後地の合意形成ができたか別々の予算がつくようであれば、もっと上のレベルを狙えばよい。

<倉阪委員>

- ・陸側のH鋼杭と鋼矢板を進めていって、その間にバリエーションを固めていくというのが、妥当だと思う。

<佐々木委員>

- ・前面にH鋼を打ち2割勾配の捨石を施工している状態は、どの程度の安全性があるのか。

事務局回答

完成断面については、震度5強まで耐えられるような設計をしている。途中段階でどの程度の安全が確保されるかという計算はしていない。

<遠藤委員長>

- ・一般論として、完成すれば設計段階の機能は発揮できるが、建設途上で安全性の評価をするのは、ちょっと難しい。

<工藤委員>

- ・H鋼杭は地震対策で、3割勾配の捨石は波対策である。どちらを優先するか、怖いのはどちらかというのを先に考えるしかない。私が怖いのは、地震のほうであり、地震対策を先にしておいたほうがいい気がする。

<田草川委員>

- ・地震対策をお願いしたいが、その中でも背後地が民地である 区間の倒壊防止を優先して実施してほしい。

<後藤委員>

- ・H鋼杭工事は、コーピングの施工により高さが高くなる。そういう意味では波対策にもなるので、それを完成した方が安全性は高いといえる。よって、H鋼杭を実施した方がよい。捨石を1:3にしてしまうとバリエーションに影響が出る可能性があるので、それはもう少し時間を掛けて議論したい。

<倉阪委員>

- ・区間は自然再生の場とのすり付けについて検討していく必要があるエリアである。今後、再生実現化試験計画等検討委員会で議論し、その議論の過程で護岸バリエーションの検討を、護岸検討委員会へお願いしなければいけない場面が来るのではないかと考えており、ここについては、検討の時期を確保できるぐらいに工事のタイミングを決めていただけるとありがたい。

<佐々木委員>

- ・護岸が倒壊しないように、捨石ぐらい施工してもいいのではないか。

<倉阪委員>

- ・自然再生の場の護岸について、1回ちゃんと皆で検討し、それを反映させるぐらいの時間的な余裕は必要だと思う。

<佐々木委員>

- ・民地部分については、同じレベルで扱っていただきたい。捨石を施工したら何か影響が出るのか。ここだけ残すことのほうがおかしいような気がする。

< 遠藤委員長 >

- ・ 区間は自然再生を重点的に考えていく場所ということで、今までずっと来た。形が決まらなければ、安全性の確保について案の提案のしようがない

< 佐々木委員 >

- ・ 案がいつできるのかもわからないし、それまで待たなければいけないということがちょっと不公平にならないか。

< 倉阪委員 >

- ・ 再生実現化試験計画等検討委員会で早急に議論をしていく。

< 佐々木委員 >

- ・ それではダメである。

< 後藤委員 >

- ・ 工事用の出入口として使われている部分もあるので、工事の実情と合わせて検討しておいたほうがよい。

< 田草川委員 >

- ・ 900mは平成22年度までの5カ年で終わらせる計画である。 区間に関しては終わらないという前提なのか。

< 遠藤委員長 >

- ・ 工期的な問題も絡んでくると思う。

< 田草川委員 >

- ・ 5カ年で終わるようにできることは実施しておいたほうがいい。市川市としては、自然環境再生ゾーンについての案は一応出して説明もしている。

< 遠藤委員長 >

- ・ 問題は、大なり小なり形をつくってしまうと、改めてバリエーションを考えましようと言っても、非常に制約された形になってしまうことである。したがって、再生実現化試験計画等検討委員会で早急に検討し、案ができれば、生物多様性を考えた理想的な形になると思う。

< 田草川委員 >

- ・ 今の完成形でそのままと言っているわけではないが、 区間もできるだけ早期に完成させてほしい。

< 佐々木委員 >

- ・ 平成22年度までには完成させるということで理解してよいか。

< 遠藤委員長 >

- ・ 基本的には5カ年計画で進んでいるが、やり方によっては5年以内で収まるかどうかという問題が出てくる。

< 後藤委員 >

- ・ 区間については、1期まちづくり及び環境学習の場との絡みもあるので、それらを総合的に判断して、もし緊急に危ないことがあれば別途対応すればよい。

<清野委員>

- ・最終決定する前に、市川市民にどのような海岸になるのか絵などを示して、パブコメなり説明会なりを行い、意見を聞いたほうがよい。まだまだ余地があるタイミングであり、最後の機会なので広く図ってほしい。

<竹川委員>

- ・陸側のH鋼杭と鋼矢板を施工するほうが、現実的でよい。陸域側の鋼矢板は、現在の直立護岸のコーピングの倒壊を防ぐためにも有意義である。

<工藤委員>

- ・陸側のH鋼杭と鋼矢板を施工する場合、過去に1年間で最大300mしか施工できていないが、平成21年度に区間も含めて全部施工できるのか。

事務局回答

予算の絡みもあるが、おおよそ2、3年ぐらい掛かると考えている。

<工藤委員>

- ・やはり300mがいいところである。何年か掛けて施工する間に、区間の扱いについて考えればいいのか。

<後藤委員>

- ・再生実現化試験計画等検討委員会と護岸検討委員会で合わせて議論していかないと、どちらかを待っていると遅くなる。先を見越してゾーニングの議論も始めておいたほうがよい。

<遠藤委員長>まとめ

- ・平成21年実施計画は、陸側のH鋼杭と鋼矢板の工事により、耐震対策を優先して進める方向とする。

護岸バリエーション(まちづくり)について

資料5により事務局から説明があり、質疑応答および意見交換が行われた。

[主な意見及び対応]

<遠藤委員長>

- ・ゾーニングについては、いつごろまでにはっきりさせればいいのか。

事務局回答

来年度バリエーションなど被覆石の部分に触らないのであれば、検討時間はまだあるが、それを実施することになると、早急に議論していただく必要がある。

<後藤委員>

- ・目標として何を設定していけるのかも視点として入れたいので、少し大きな議論も必要だと思う。

<清野委員>

- ・陸域についての緊張感が足りなくて、グリーンベルトができない場合、最悪の場合、壁になるかもしれないということを意識しながら地元にも考えてほしい。この絵を実現するための協力体制とかステップを、県が整理することを希望する。

<田草川委員>

- ・マザーゾーンについては、自然再生ができあがるまで人を入れないという意味と理解してよいのか。自然再生の現場を教育的に見せるのも必要なもので、将来的にも人の出入りを許容しないという考え方であれば、納得できない。

<倉阪委員>

- ・マザーゾーンについては、環境学習施設とも近いので、子供たちが学習できるような場にしたいと思う。人が立ち入らない地域として保全ゾーンのほうがあるので、そのような形で分けていったほうがよい。

<竹川委員>

- ・グリーンベルトは、三番瀬を取り巻く景観、自然環境において非常に重要なシンボルである。塩浜2丁目に立地しているある企業は、グリーンベルトが該当する部分で建築工事を進めており、緑化に対する発想がない。幕張、葛西は陸域への景観で人が集まり親しんでいるので、市川市としても早めに手を打ってほしい。

<遠藤委員長>まとめ

- ・大きな意味で、方向性はしっかり明確にしておく必要がある。
- ・護岸バリエーションについては、再生実現化試験計画等検討委員会と歩調を合わせ、引き続き検討していくこととする。

春季モニタリング調査の結果

時間が不足したことから、説明は省略された。

その他

<事務局>

- ・生物公開調査と勉強会を9月上旬に開催する予定である。

傍聴者からの意見

- ・資料5のシート5に底質の状況が記載されているが、これは調査した結果を載せているのか。

事務局回答

資料3の12ページに示してあるとおり、調査した結果である。